

むらの大学

導入

「むらの大学」とは、福島大学にて1年生を対象に原発事故からの復興に取り組む地域を深く学ぶ講義である。

〈フィールド〉

川内村・大熊町・南相馬市小高区・飯舘村
→学生は必ず現地へ足を運んでいる。



むらの大学Ⅰ

震災当時の状況や各地域の概要を
教員・ゲストスピーカーから学ぶ

4地域に分かれ現地で
フィールドワークを実施する



むらの大学Ⅱ

4地域にわかれ、インタビュー記録を
もとにアーカイブを作成する。

〈後期の流れ〉

- ①夏休み等で現地にて
フィールドワークを行い、
住民にインタビュー
- ②インタビューの編集
→各地域3～4班に分かれ
インタビューを編集する
- ③ご本人に完成した原稿を
確認してもらう
- ④再編集後、入稿、完成
- ⑤現地にて書籍・アーカイブの
お渡しと報告会



アーカイブ化・書籍化

〈目的〉

原発事故の記憶・教訓の継承

〈内容〉

住民ご本人の了承を得たうえで、
インタビュー活動をアーカイブとして
後世に残す取り組みをしている。

〈アーカイブ〉

福島大学 教育推進機構
「地域×データ」実践教育推進室HP
→『アーカイブ』より
<https://region-data.net.fukushima-u.ac.jp/>

〈書籍出版〉

『福島、語り継ぐ生活史：
大学生が聞いた暮らしと原発事故』
(青弓社)
→2023年度から25年度までの
4地域・43組のインタビューの総集編



書籍の購入は
こちらから！